

## 【エッチ潤沢】清楚系アイドルの淫乱ご奉仕

シナリオ…とち乙女

登場人物

・優香

「主人公」の幼なじみで、本来は内気

おしとやかで、清楚な美少女

きれいなロングヘア

清楚系で売り出し中のアイドル

・「主人公」

優香のマネージャー。

優香の年上の幼馴染みでお兄ちゃんの存在

トラック1「優香は清楚系アイドル」

■誰もいない楽屋

優香 「ねえねえ」

主「こら、仕事中は仕事中はもっと距離を持てって言つたろ」  
マネージャー「って呼べって言えよ」

優香 「距離を持てって……、だって幼馴染みじゃない  
なかなかマネージャーなんて呼べないよ」

主「仕事とプライベートはわけろ」

優香 「……うん、わかった。仕事とプライベートはわかるね、マネージャー」

優香 「ねえ、マネージャー。この後は歌の収録だけ……だよね？」

主「ああ」

優香 「じゃあ、あの……、収録が終わったら一緒に帰ろうよ」

主「アイドルが男性と帰るのはちょっと……」

優香 「だって、家と同じ方向なんだよ？  
別々に帰る必要なんてないよ」

優香 「それにね、マネージャーに送ってもらったっていう形にすれば、  
大丈夫かなって思うの」

主「じゃあ、他の子も呼びなさい」

優香 「え、他の子も!？」

主 「その方が自然だろ？」

優香 「それは……その、確かに自然だけど……」

優香 「で、でもね、私はマネージャーと」

主 「わがままは言わない」

優香 「……はい、わかりましたよ」

主人公が優香の頭をポンポンする

優香 「……うん、もつとして？」

主 「甘えない」

優香 「甘えてなんかないよ。これぐらい……いいじゃない」

主 「しょうがないな」

優香 「ふふ、ありがと。これだけで、歌うの頑張れる気がする」

主 「じゃあ、俺は別の現場に向かうから」

優香 「え、聴いててくれないの？」

主 「俺も仕事があるからな」

優香 「私のパートだけでも」

主「しょうがないな。そんな顔されると……」

優香 「お願い……」

主「うん」

優香 「！　ありがとう！」

主「でもそうそう言うこと聞いてはやれないぞ」

優香 「私、わがまま？　マネージャーには迷惑？」

主「そういうわけじゃないけど」

優香 「だって、私はマネージャーのこと……」

主「今は仕事中だろ」

優香 「……………。そうだね。今は仕事中だったね」

優香 「ごめんなさい。私もちゃんと仕事するから。歌、聴いててね」

主「ああ」

優香 「ふふ、約束だよ、マネージャー」

トラック2 「ライブ直前、ドキドキご奉仕」

■ライブ前の誰もいない部屋

優香 「ふう……」

主 「大丈夫か？」

優香 「うん。あと二時間でライブなんだね。やっぱり緊張するよ」

優香 「ライブは初めてじゃないのにね……。何回やっても緊張しちゃうの。でも、マネージャーが見てくれていると思うと、頑張れるんだよ」

主 「そうか」

優香 「だから、今日もちゃんと見ててね？」

主 「ああ。もちろんだよ」

優香 「ふふ、ありがとう」

主 「それにしても……」

優香 「見て。この衣装……どうかな？」

「なんだか、いつもより透けてる気がするんだけど……」

主 「そう、だな……」

優香 「で、でもアイドルなんだから普通だよな？ 頑張らなくちゃ」

主 「ああ……」

優香 「それとも……マネージャーは嫌？ 私がこういう格好するの……？」

主 「そんなことないよ」

優香 「嫌って言うってほしいのに……」

主 「え？ なんかつた？」

優香 「ううん、なんでもない。……もう」

優香 「あ、あのね、もっとよく見て欲しいな。後ろとか、どう？」

優香 「スカート短くない？ 下着が見えそう……。ほら、マネージャー見て？」

優香 「もっと近くで見て……ねえ……」

主 「ちょっと待て」

優香 「スカート持ち上げるから、確かめて……」

主 「だ、ダメだよ」

優香 「なんかね、下着濡れてない？

マネージャーとふたりきり、だからかな？」

優香 「なんだか、すごくじんじんしちゃって……。私、変？」

主 「変じゃ、ないけど……」

優香 「触って、確かめて？」

主 「ダメだってば」

優香 「よく見て……ね？　お願い、マネージャーなんだから、ちゃんとアイドルの管理しなくちゃ……」

主 「つて言っても……」

優香 「こんなコト出来るの、マネージャーの前でだけだよ。マネージャーのお仕事なんだからね？」

主 「優香、ダメだってば。俺だって……我慢の限界が……」

優香 「我慢なんてしなくてもいいよ。だって、これはお仕事だもん」

主 「そうは言っても……」

優香 「でもこんな衣装、マネージャー以外に見せたくないな」

主 「ちゃんと見えないようになってるから、心配するな」

優香 「そうだよね、だって……今だけは特別だもん」

主 「え？」

優香 「ねえ、マネージャー、ブラジャーつけてないの、わかる？」

主 「つ、つけてないのか！？」

優香 「ん、ありのままの私を見て欲しくて……  
恥ずかしいけど、マネージャーになら……」

優香が主人公に抱きつく

優香 「マネージャー……ねえ……」

主 「こら、離れなさい」

優香 「私のおっぱい、触ってくれないの？」

主 「だめだよ」

優香 「私じゃ、ダメなの……？」

主 「そういう問題じゃなくてな……」

優香 「もうライブまで二時間しかないんだよ……？」

リハーサル後の汗かいたおっぱいじゃ……嫌？」

主 「う……」

優香 「あんっ、あ……気持ちいい……おっぱい気持ちいいよお。

ねえ、おっぱい、吸って……？ はい、私のえっちなおっぱい……  
いっぱい吸っていいよ……」

優香 「ふぁ……っん、乳首がちゅううってなって気持ち良いのお、

でも、私だけ気持ち良くなっちゃ、だめだよね……？」

優香 「あのね、友達がね、男の人が気持ちいいところ、教えてくれたんだよ。

セックスについていっぱい勉強したの。

マネージャーの耳、舐めてあげる」

優香 「ん……ちゅる……ちゅ……じゅるる……、

ふぁ、気持ちいい？ ……ちゅる………」

優香 「はっ、ちゅ……はっ、はっ、マネージャー」



主「く……」

優香 「ん……、そうだった……私、アイドルだからマネージャーにご奉仕しなくちゃダメだよね……」

優香 「あのね……耳を舐める以外のことも……教えてもらったんだよ……す、すごく恥ずかしいけど、お口でおちんちん舐めるの……それでね、口の中に入れるんだって。フェラ……チオだっけ？ マネージャー、してもいい……？」

主「い、いいけど……」

優香 「うん！　じゃあもつと頑張るね！」

優香が主人公の性器を取り出す

優香 「あ……、これがマネージャーのおちんちん……。初めて見た……嬉しい、大きくなってる……」

優香 「私……気持ち良くなってもらえるように、頑張るからね？　ちゃんと見ててね、マネージャー♡」

優香 「ん……ちゅ……これが……おちんちんの味……んん……何かぬるとしたのが……出てきた……なんだかしよっぱいような……変な味……？　んん、マネージャー、これってなあに……？」

主「カウパーだよ……気持ちいいと出るんだ……」

優香 「本当に！？　マネージャー、気持ち良いの？　ん……れろ……ちゅ……もつと……もつと……」

優香 「ねえ、精液は出ないの……？」

主 「せ、精液って……」

優香 「だって……男の人は射精するんでしょ？ 私じゃまだ出ない……？」

主 「そ、そんなことはないけど……」

優香 「あ、こつちを舐めればいいんだね？

えーっと……なんだっけ、玉……舐め？」

主 「誰にそんなこと教わったんだ！」

優香 「友達がね、漫画を見せてくれたの。それで私、一生懸命勉強したんだよ」

優香 「……こうやって、吸い付くように……ちゅう、マネージャー、

もつと足を開いて……ちゅ……難しいね……はむ。ちゅうう……、

こうかな？ 口の中で転がすように……ちゅるる……」

優香 「ん……おちんちんが上を向いてく……ちゅる……

ん……じゅるる……」

優香 「マネージャー声出していいんだよ……？ ちゅうう」

主 「そんなわけいくか」

優香 「気持ちいい声聞きたいのにい。

それとも……誰かに聞かれちゃうかな……？」

主 「ったく……」

優香 「ちゅ……ん……固く、大きくなつてく……すごいよお……」

優香 「マネージャー、こんなにびくびく脈打って……  
もうすぐ射精するんだね……？　じゃ、じゃあ、最後は……」

優香 「えっと、えっとね、フェラチオ……するからね？　練習したんだよ。  
その……バナナだね。おちんちんはそのぐらいの大きさだからって  
……喉まで使うと大変だけど……男の人はそれが気持ちいいって……。  
でもマネージャーのはバナナよりもっと大きくなったね。  
私の口に入るかな？」

優香 「はあ……、じゃあ、行くよ？　ん……緊張するけど……頑張る……」

優香 「じゅる……じゅるる……ん、くるひい……じゅる……じゅ……」

優香 「ろろ（喉）のおう（奥）まれ……じゅじゅ……じゅるる……」

優香 「ん、ん、ん、ん、うう、あう……っ」

主人公が射精する

優香 「んくっ！　ごくんっ、はあ……」

優香 「全部飲めなかった……。折角マネージャーが射精してくれたのに……。  
でも……エッチな味だね……なんだか癖になっちゃいそう……」

優香 「マネージャー、気持ちよかった？」

主「ああ」

優香 「よかったあ。私上手く出来たんだね。

男の人にこんなことするの、初めてで……

マネージャー以外の男の人にこんなことするわけないし……」

優香 「マネージャーを射精させることが出来たから、

なんだかちよっぱり大人になれた気がする……。ふふ……」

主 「満足したか？」

優香 「やだ、もつとする……。本当はセックスしたいけど、

ライブの前だから……。でも、まだ射精出来るよね……。？」

優香 「それとも、誰か来ちゃうかなあ……」

主 「いや……」

優香 「アイドルがエッチなことしてるなんて、すごいよね……」

優香 「ねえ、もっと耳を舐めたら、その気になる……。？」

優香 「ちゅ……ちゅるる……。気持ちいい……。？」

おちんちん大きくしていいんだよ……。？」

優香 「マネージャーのためなら、いくらでもご奉仕するから……。ね……。？」

主 「それより、ブラジャーをつけろ」

優香 「ん……。私のおっぱい、好きじゃないの……。？」

主 「そういうわけじゃないけど……。ちゃんとつけなさい。

俺以外の人が見たらまずいだろう」

優香 「わかった……。じゃあ、マネージャーがブラジャーつけて……？」

主 「ブラジャーの付け方なんてわからないよ」

優香 「ブラジャーの付け方、ちゃんと教えてあげる」

優香 「あのね、こうやっておっぱいをすくうようにつけて……  
腕を通すでしょ、それで後ろのホックをつけて？」

優香 「それで、こうやって胸の形を整えるの。ブラジャーの中に手を入れて……そう、そうすると、胸に谷間が出来るの……」

優香 「ふふ、よく出来ました」

主 「こんなコトして……」

優香 「マネージャーのも仕舞ってあげるね。ええと、こうやって……。あ、大きくしちゃダメだよ……。？　ちゅっ」

優香 「はい、出来た。ふふ、なんだかこれって、お嫁さんがやるみたいだね」

優香 「ねえ、衣装汚れちゃったね……」

このままライブしたら、おまんこじんじんしちゃいそう」

優香 「でも……これって、本当は駄目なこと……だよね……。ファンのみんなの前にエッチな汁がついた衣装で出るって……。裏切り行為に……なるのかな……」

優香 「本当は【みんなの優香】でいなくちゃいけないのに、私、汚れた姿でニコニコ笑って歌うんだもん……。だけど、そのいけないっていう気持ち、余計にドキドキさせるの。あ……っ、また、おまんこがドクン、ってなっちゃった……」

主「ば、バカ！」

優香「ライブ楽しみだね？」

主「くっ……」

主人公に電話がかかってくる

優香「仕事の電話？」

主「ああ」

優香「じゃあ、もう行っちゃうの？」

主「別の現場もあるんだ、仕方ないだろ」

優香「そうだけど……。私、寂しい……」

主人公が優香の頭をポンポンする

優香「もう、いつもそれなんだから。いつまでも誤魔化されないからね？」

主「ああ、ごめんな」

優香「ねえ、今度は……」

主「何？」

優香「その……えっと……、ちや、ちゃんとセックス……してくれる？  
ご褒美欲しいな」

主「……………」

優香「ふふ、私絶対頑張るね。いつてらっしゃい」

トラック3 「水着でグラビア撮影」

■海

優香 「はぁ……やっとグラビア撮影、終わったね。長かったなあ」

優香 「うーん、海に入りたいぐらい、良い天気でよかった……」

主 「ああ」

優香 「ね、この衣装、どう？ この前のライブと同じデザイナーさんの衣装だけど……。もっとエッチな衣装だと思わない？」

優香 「やっぱり見えそうになっちゃうの……」

主 「え、似合ってると思うよ」

優香 「そうじゃなくて……その気に、なる？」

主 「その気って……こんな所で言わないの」

優香 「じゃあ、あの岩場の方に行こうよ。あっちなら誰も来ないから」

優香が主人公の手を取って、岩場へ連れて行く

優香 「ほら、こっちの影に来れば……誰にも見えないから大丈夫だよ。ふふ、大きな声出しても大丈夫」

主 「こんな所で何するつもりだ？」

優香 「あの……あのね、その……」



主「どうした？」

優香

「私……この間の続きをしたいの。」

ほら、この衣装、ライブの時とデザインがすごく似てるでしょ？  
だから私、……撮影中にあの時のことを思い出しちゃって……。  
もう、エッチな匂いがする……。でしょ？  
ねえ、続きしようよ」

優香

「この間の……エッチの続き」

主「この間の続きって……」

優香

「またブラジャーつけてないの。……下着もだよ。  
誰かにバレないか、ドキドキしちゃった♡  
ライブの前の……。あの時の続き、させて？」

主「それはダメだよ……」

優香

「どうして？ 私が幼馴染みだから？  
子供の頃にお前とは結婚しないって言われて、  
すごくショックだったんだんだよ……。？」

主「だって、そうじゃないか」

優香

「もう、私は大人だよ？ 子供じゃない。  
アイドルにだってなれた。意識してくれない？  
この前だってちゃんとマネージャーを気持ち良く出来たよね？  
マネージャー、気持ち良さそうに射精したじゃない」

主「でもな……」

優香 「もう、誤魔化してもダメだよ。マネージャー、私がエッチな衣装で、おちんちん固くしてるの知ってるんだから。撮影の時は我慢してたけど……」

優香 が服越しに主人公のものに触れる

優香 「ほら……固いよ……。私もね、マネージャーが見てると思うと、おまんこじんじんっちゃうの。でも仕事だから、エッチなお汁が中からこぼれないように他のこといっぱい考えて、我慢してたんだよ。偉いでしょ？」

主 「そんなこと言われても……」

優香 「こ、こんなこと言うの、本当は恥ずかしいことだってわかってる……。もしかしたら、マネージャーに淫乱って思われるかもって……」

優香 「でもね、こうしないと、マネージャーが他の女の人に取られちゃう気がして。私、マネージャーのこと大好きだもん」

優香 「ね、私じゃダメかな……？」

主 「ダメってわけじゃ……」

優香 「私、マネージャーのためなら、もっとエッチなポーズ出来るよ」

優香 「こんな風にお尻を向いたり……足を広げたり……。ちよつとだけおまんこ見せるように、ほら……見て……」

主 「ゆ、優香……」

優香 「ね、マネージャーのためだけに考えたんだよ。

私のこと、もっとよく見て……ブラジャーも下着も、  
つけてないんだよ……あん、濡れてきちゃった。恥ずかしい」

優香 「してくれないなら、自分でおまんこいじっちゃうの。

見て、オナニーする私を……」

優香 「見て、見てえ。このおまんこで

この前みたいに、マネージャーを気持ちよくしてあげるよ……  
私もう我慢出来ない、マネージャーとセックスしたいの」

主 「けどゴムないし……」

優香 「私ね、いつでもマネージャーとセックス出来るように、

ちゃんとピル飲んでるの」

主 「お前……」

優香 「偉いでしょ？ 赤ちゃん出来ないから、いっぱい中だししてね♡」

優香 「まずは耳だね……。マネージャーはどっちの耳が敏感なの？」

主 「左、かな……」

優香 「左だね。ん……」

優香 「ちゅ……ちゅる……、気持ちいい……？

またマネージャーが気持ち良くなれるよう、勉強したんだよ」

主 「なんで……？」

優香 「は、恥ずかしいけど、ね、アダルトビデオ見て……。

友達に言われるだけじゃわからないから……」

優香 「す、すごかったんだよ。私、あんなこと出来てなくて、

男の人も女の人もものすごくエッチな声出すの。

この前はマネージャー、あんな声出さなかったし、  
気持ちよく出来なかったよね？」

主 「いや、あれはアダルトビデオだから……」

優香 「？ ビデオだから？ じゃあ、あれは演技なの？

けど、気持ちよさそうだったよ？」

主 「そういうもんなの！」

優香 「えええ、アダルトビデオってすごいだねえ。

でも、私マネージャーとああいう風にしたいの」

主 「まったく、悪影響を受けて」

優香 「悪影響なんかじゃないよ。ちゃんとやり方わかったもん……」

主 「どうだか」

優香 「本当だよ。でもそんなに言うなら、今度はマネージャーに教えて欲しい。

本当のセックス……もうたまらないの。我慢出来ないのお」

主 「優香、お前はアイドルなんだぞ？」

優香 「アイドルなんて関係ない。私、マネージャーとしたい。ほら、胸触って？

こんなにドキドキしてるの……」

優香 「わからない？　じゃあ、衣装の中に手を入れて、おっぱい触って……？」

主 「そんなこと……」

優香 「あんっ。……柔らかい……？　ねえ、乳首触って。

立ってるのわかる……？　くにくにして……はあんっ。

この前みたいにちゅっちゅしていいんだよ？

だってこのおっぱい、マネージャーのだもん」

優香 「マネージャーも気持ちよくしてあげるね。

耳……左の方が敏感なんだよね？」

優香 「ちゅ……、マネージャーも、声出しているんだよ……？

あのビデオみたいに、私の名前、呼んで欲しい……」

主 「優香……優香！」

優香 「ん、嬉しい……もつと、エッチな声出して」

優香 「マネージャー、キスしよう？」

優香 「んん……ちゅう……はあ……、

マネージャーとキスしちゃったあ。嬉しい。私のファーストキスだよ……。

最初のキスは、マネージャーに貰ってもらって

ずっと前から決めてたの」

優香 「もつと……ちゅる……ん……ちゅう……はあ……」

優香 「マネージャー、気持ち良さそうな顔してる。

じゃあ、この前みたいに、マネージャーのおちんちん、

舐めてあげるね……？」

優香 「きもひいい（気持ちいい）……ちゅば……………  
ちゅる……れろ……ふふ、ちゃんとぬるぬるしてきた……  
もっと固くして……？」

主 「う……うう」

優香 「あ、マネージャー、声出た。ふふ、聞いたかったんだよ……。  
もっともーつと声出してね」

優香 「それで……射精はまだしちゃダメだよ……？  
だって、これ、私のおまんこに入れるから……」

主 「本当にするのか？」

優香 「して……。私の初めて、マネージャーが貰って」

主 「衣装着たままで？」

優香 「うん、衣装きたままの方が興奮しちゃう……。  
なんだかいけないことしてるみたいで、ドキドキするの、  
マネージャーの精液だらけになっちゃう」

優香 「マネージャーも興奮してるくせに。もう、マネージャーってば。  
処女は嫌？ 処女まんこ、マネージャーにあげちゃう」

主 「そ、そうか……」

優香 「私、頑張るから。  
アダルトビデオみたいなのは出来ないかもしれないけど、  
マネージャー、横になって。今ならぬるぬるで自分で入れられそう。  
はしたない私がマネージャーのおちんちん入れるの、  
ちゃんと見ててね」

優香

「あん、入らない。こんなにぬるぬるしてるのにい。  
あともうちよつと……。んあ……。入らないよお。  
あん、ああん。おちんちん入らないよお  
欲しいの、おちんちん欲しいのお」

主「俺が入れるか」

優香

「ダメ、私が入れるから、待ってて」

優香

「あつ、もう少しで入りそう。ここ……。この中に……」

優香

「あ、あ、ここ、入ってくるう……。ん、あ、痛い」

主「無理するな」

優香

「ううん、頑張る。ん……。つ、もうちよつと……。あ、ああ！」

優香

「痛いけど、はいたあ。  
でも……。思ったより痛くなかったね。……。これが、セックス……」

主「大丈夫か？」

優香

「はんつ、私のおまんこ、ぬるぬるしたのが出てくるから、大丈夫……。  
マネージャーのと混ざって、ぐちゅぐちゅしてるの」

優香

「それより、マネージャーは気持ちいい？ 私の処女まんこ、  
気持ちいい？」

主「ああ、気持ちいいよ」

優香

「よかった……。じゃあ、もっと気持ちよくするね」

優香 「ん、ん、こう？ ん、ん、んん、ちゃんと出来てる？」

優香 「きゃあっ！」

優香 「あ、あ、いやあ、そんな強くしないでえ。おまんこ変になっちゃうう」

優香 「やあ、誰か来たあ」

主 「声出したら、見られちゃうよ？」

優香 「ん、声でちゃう。見られちゃうよお。んん、ん……！」

優香 「ああっ、マネージャーっ、お尻からなんて、恥ずかしいっ、あ、あ、強い、やあんっ、やらしい声が出ちゃうう」

主 「アダルトビデオと同じだな」

優香 「んんっ、やあっ、ビデオと、同じい、すごい、やあ、気持ちいいよお」  
エッチな私、見られちゃうう」

主 「これなら淫乱になれるな」

優香 「や、マネージャー、えっちなこと、あんっ、言わないでえ」

優香 「あっ、なんか変なの、あ、あ、変なの来ちゃうよお、  
や、マネージャー、助けてえ」

主 「いくぞ」



優香 「あああああんっ！！」

優香 「はあっ、はあっ、はあっ、これが本当のセックス……。すごいよお……」

主 「初めてなのに、気持ち良かったのか？」

優香 「うん。初めてだけど、マネージャーのおちんちんが中に入ってると思うと、頭がぼううつとして、そしたらおまんこがすごく熱くなっちゃったの……。今も、お腹の中が温かいよ……」

優香 「マネージャー。私の中のおちんちん、気持ちいい……？」

主 「ああ」

優香 「あんっ、もう抜いちやうの……？ やだやだあ」

優香 「ねえ、今度はマネージャーの顔見てしたいの。エッチな顔見せて。私のおまんこで気持ちよくなってる顔見せて」

優香 「マネージャーの精液もつと欲しいの。中でびゅくびゅく出して、私の中いっぱいにして？」

優香 「あ、また誰かきたあ。見られちやう、見られちやうよう」

優香 「んんっ、ん、あんっ……、あああああっ、んんん………っ」

優香 「ふああん」

優香 「マネージャーのおちんちんもびゅくびゅくしてる。見られたら感じちやうの？ えっち♡」

主「抜くぞ」

優香「やん」

優香「見られてると思うと、興奮しちゃった……」

優香「あ、もう日が暮れてきた……。もっとマネージャーとしたかったのに」

主「しばらく隠れていよう」

優香「うん、人がいなくなるまで待ってよう。私のこと抱きしめてて」

主人公、優香の頭をポンポンする

優香「んもう、いつもそれで誤魔化すんだから……」

主「またしてやるから、今日はもう終わりにしような」

優香「うん。今日はこれでいいよ……。でも」

主「ん？」

優香「これで私達、恋人同士だよねっ」

トラック4 「頑張ってHな営業」

■ホテル

主人公がクローゼットに隠れる

優香 「じゃあ、マネージャー、ここに隠れてて。

もし……襲われそうになったら、助けてね。

でも私、頑張るから……後でご褒美ちょうだいね」

優香 「あ、来た。じゃあ、マネージャーよろしくね」

優香 「はい、どうぞ、入ってきてください」

優香 「プロデューサーさん、今日は無理を聞いてもらって  
ありがとうございました」

優香 「その、ゆっくりプロデューサーさんとお話したくて……、  
ホテルになんかに呼び出してすみません」

プロデューサー 「いやいや、いいよ、優香ちゃん」

優香 「あの、私、プロデューサーさんにお問い合わせがあるんです」

プロデューサー 「なんだい？」

優香 「今度の特別番組、ミュージック・ショーに出させてもらえませんか？」

プロデューサー 「んん、君はまだ新人だからねえ」

優香 「私がまだ新人で、不相応なのはわかってるんです。

でも、もしミュージック・ショーに出られたら、  
認知度もアップするかなって思ってるんです」

優香 「プロデューサーさんには迷惑かけませんから、

どうか考えてもらえませんか？」

プロデューサー 「ただで、というわけはねえ」

優香 「そうですよね、ただでなんて、私もそんなおこがましいことは

考えてません」

優香 「だ、だから……」

プロデューサー 「だから？」

優香 「こんな恥ずかしいこと、言わせないでください……」

プロデューサー 「さすが清楚系アイドルだね。でも言ってくれないと」

優香 「あ、あの、ご奉仕させてくださいませんか……？」

私、清楚系なんて言われてるけど、本当はエッチな子なんです……」

プロデューサー 「そうかそうか、じゃあ手始めに、脱いでもらおうか」

優香 「え、服を脱ぐんですか……？」

プロデューサー 「出来ないのかい？」

優香 「い、いえ、やります！ ……ちゃんと見ててくださいね……？」

優香 「どう、ですか、私の身体……。見て……」

プロデューサー「うん、良い身体してるねえ」

優香 「あ、あの……ご奉仕、してもいいですか……？」

プロデューサー「いいよ、来なさい」

優香 「じゃあ、最初はお耳を……」

優香 「気持ちいいですか……？」

あん、おっぱい触っちゃだめえ。気持ち良くなっちゃおう」

プロデューサー「うんうん、いいねえ。」

じゃあ、もうちよつと頑張ってもらおうか」

優香 「はい」

優香 「じゃあ、ズボンを……」

優香 「はあ……。プロデューサーさんのおちんちん、大きいですね……」

優香 「もう勃起してる……。じゃあ、もつと気持ち良くさせてあげますね？」

優香 「んん……れろ……はあ……しよっぱい……ん……ちゆる……」

プロデューサー「よしよし、良い子だね。じゃあ今度は啜えなさい」

優香 「はい……。おちんちんを口の中に入れますね。」

私のお口で気持ちよくなってください……」

優香 「ふ……ん……きもひいいれふら（気持ちいいですか）……？」

プロデューサー「ああ、いいよ、いいよ……」

優香「だひてくらはい（出してください……）……………ちゆる……  
れんふるみらふから（全部飲みますから）……………」

プロデューサー「ああ、もう出る！」

優香「んんっ、ごく、ごくん……。はあ……美味しかったです……」

プロデューサー「さあ、本番といこうか」

優香「あ、入れるのはダメです……。私は処女なので、許してください……っ」

プロデューサー「しょうがないなあ。じゃあ、すまたで」

優香「すまた？」

プロデューサー「そんなことも知らないなんて、ウブだねえ」

優香「ウブなんて、そんな……」

プロデューサー「ほら、足を閉じて。ふとももでこするんだ」

優香「太ももで？　こうですか？」

プロデューサー「そうそう、気持ちイイよ……」

優香「あ、あ、気持ちいい」

プロデューサー「ああ、私も気持ちいいよ。うっ」

優香 「プロデューサーさん、私のご奉仕、どうでしたか……？  
ミュージック・ショーのこと……」

プロデューサー 「ああ、考えておこう」

優香 「ありがとうございます！ 嬉しいです！」

プロデューサー 「じゃあね、また頼むよ」

優香 「はい、また……」

優香 「ふう……」

クローゼットから主人公が出てくる

優香 「マネージャー！ 気持ち悪かったよ……！」

主 「そうか？ 結構頑張ってたじゃないか」

優香 「だってマネージャーが見てくれたから、頑張ったの……。  
マネージャーに迷惑かけたくなくて……。  
ミュージック・ショーに出られたら、マネージャーの功績になるもの」

主 「そうか、よく頑張ったな」

主人公が頭をポンポンする

優香 「それだけ……？」

主 「え？」

優香 「マネージャー、私にご褒美……くれないの？」

もう身体がうずうずするの。マネージャーが欲しいの……」

主 「そうだな……、じゃあシャワーを浴びようか」

優香 「うん！ シャワーで私の身体、洗ってね」

#### ■シャワールーム

優香 「あ、ああん、マネージャーの手、石けんでぬるぬるして

気持ちいいよ……。マネージャー、私のおまんこも洗ってえ」

優香 「おまんこの中も、洗って……？」

ぬるぬるして、ちゅくちゅくするの……。エッチな音……。

あん、お尻も……？ やだ、マネージャーの変態……」

優香 「ふぁ……あんつ、気持ちいい……はぁつ、マネージャー、

おっぱい揉み揉みしながら、私のおまんこに大きいおちんちん  
入れて……。ずっと欲しかったの……

マネージャーにこっそり見られて、興奮したけど……」

優香 「でも、本当はマネージャーにだけして欲しいんだよね？」

主 「その前にすまたをしようか」

優香 「え？ すまた？ どうして？」

主 「優香を綺麗にしてやりたいからな」

優香 「あんつ、石けんなんかつけたら、気持ち良すぎちゃうよ、だめ……」

主 「そのままでもいいのか？」



優香

「ううん、マネージャーの感触で、あの気持ち悪いプロデューサーの感触消して欲しい……」

優香

「あ、あ、気持ちいいよお。さっきのはすごく気持ち悪かったのに、マネージャーのおちんちんこすれてにゆるにゆるして、おまんこじんじんしちゃうの……」

優香

「やだ、泡が立ってる……こんなの、恥ずかしいよお」

優香

「あんっ、シャワーかけないで！ あとちよつとでイけそうなのに、物足りないよお……ねえ、もつと強くして、シャワーじゃ足りない……」

優香

「やだやだ、私、マネージャーのおちんちんでイきたい、イきたいよお……入れて、入れてってばあ……！」

主「仕方ないな」

優香

「だって、私本当ははしたない子だもん……っ。マネージャーにだけ、発情しちゃうの……」

優香

「あああああんっ！！」

主「入れただけでいったのか？」

優香

「はあ、はあ、イチやった……。マネージャーのおちんちん、好き、はあ……」

主「ほら、鏡を見てごらん」

優香

「え、鏡？」

優香 「やあん、足広げないでえ。マネージャーのおちんちんが入った、  
恥ずかしいおまんこが見えるのお。恥ずかしいよお」

優香 「はあ、はあ、おまんこってこんな恥ずかしい形してるの……？」

主 「そうだよ、やらしいだろ」

優香 「マネージャーにこないやらしいモノ見られてたの？  
やだやだ、恥ずかしくて死にそうだよお」

主 「俺のおちんちんの味はどうだ？ このエロまんこは」

優香 「私のエロまんこ、マネージャーのおちんちん美味しいって言ってる……、  
ほら、ぱくぱくして、何度もイっちゃう……」

優香 「ねえ、キスして、マネージャー……」

優香 「ん……ちゅ、ちゅる……好き、好きい、マネージャー、好きだよお」

優香 「中、中にぴゅーて出してえ」

主 「俺も好きだよ」

優香 「ああああん。出てる、いっぱい出てるよお。どくんどくんしてるのお」

主 「なんだ、またいったのか？」

優香 「ん……マネージャーに好きって言われると、頭真っ白になっちゃう……  
ちゅる……」

主 「好きだよ」

優香 「や、もう好きだって言わないで。おかしくなっちゃう。

マネージャー大好きい……」

主 「好きだ、好きだよ、優香。優香は言ってくれるじゃないか」

優香 「はぁんっ、マネージャー……ちゆる……ちゅ

はぁあ……はぁ……だって、私が言うのはいいの、

マネージャーが大好きだから……。でもね、マネージャーは  
優香のこと好きって言っちゃダメなの。私、発情しちゃうから……。  
事務所でも、外でも、どこでも発情しちゃう……」

優香 「それでね、優香のエロまんこがぐちゅってなって、濡れちゃうの。

でね、たくさんお汁が出てきて、こぼれちゃうの……」

主 「大好きだよ、優香」

優香 「やぁん、マネージャーの意地悪う……。

そしたら、ライブも出来なくなっちゃうよお……」

主 「そうか、じゃあ、今だけだな」

優香 「うん……。マネージャーとエッチする時だけ、私のこと好きって

言ってるね……？ そしたら、もっと営業がんばるから……。

もうマネージャー以外に発情なんてしないの……」

主 「頑張ったな、優香」

優香 「うん、マネージャーのために、もっと営業頑張るね……」

優香 「だから……ご褒美ちょうだいね。

このおちんちんで、優香のエロまんこいじめてね……？」

トラック5 「あなたのためだけの優香」

■芸能事務所

優香 「え、プロデューサーさん、私のヌード写真集を!？」

プロデューサー 「そうだ、どうだい、やってみては」

優香 「私なんかに出来ることじゃ……」

主 「そうです、この子はまだ新人で」

優香 「マネージャーの言うとおりです。

私はまだまだ新人で、イメージが悪くなるんじゃない」

プロデューサー 「そうかな？ この前の営業も……」

優香 「あ、あれはミュージック・ショーに出るためで、それとこれとは……」

主 「俺は絶対反対です」

優香 「マネージャー……。私も絶対嫌です！

とにかく、この話はなかったことにしてください！」

■主人公の部屋

優香 「マネージャーの部屋、こんななんだ」

主 「来るのは初めてだったか」

優香 「うん、マネージャーが実家出てく時は寂しかったな。  
でも近くでよかった」

主 「ここならふたりきりだ」

優香 「うん、ここならふたりきりだね。その……ふふ」

優香 「それにしてもあのプロデューサー……  
私にヌード写真集出せだなんて……マネージャーが  
反対してくれなかったら、私、泣いちゃったかもしれない……  
だって、私の裸を見ていいのは、マネージャーだけだもん」

主 「大丈夫、優香は俺が守るよ」

優香 「マネージャー……。ずっとずっと、私のこと守ってね。  
だって、私はあなたのためだけの優香なんだから」

優香 「写真だって、マネージャーにしか見て欲しくない……。  
アイドルがこんな事言っちゃいけないってわかってるけど……。  
マネージャーが見てくれると思うから、頑張れるの」

優香 「ねえ、マネージャー、こっち来て……」

優香 「ね、私の写真撮って。はい、ピース」

優香 「この写真は、マネージャーのためだけの写真だよ。もっと写真撮ろうよ」

優香 「あー、今の変な顔になっちゃった。消して。ふふふ」

優香 「やん、今スカートの中撮ったでしょ。もう……」

優香 「でも……マネージャーになら、いいよ？」

優香 「マネージャーになら、エッチな写真、いっぱい撮ってほしいな……」

優香 「ね、マネージャー、耳が敏感だから、エッチな気分になってきたでしょ……？」

優香 「ブラジャー取って、乳首が透けてる写真……撮ってみようよ……」

優香 「やだ、乳首立ってるう」

優香 「あ、次はマネージャーのシャツ着てる写真も撮ろう？  
今度は……パンツもいらないよね……？  
やだ、パンツから糸ひいてる……」

優香 「ん……こんなに濡れてる……あ、や、そんなとこ撮らないで……  
おまんこ写真なんてだめえ」

優香 「ふふ、やだ、もう……マネージャー……」

優香 「ん……、マネージャー……、あれ……これ、動画モード……？  
もうマネージャー、やだ……エッチなんだから」

優香 「マネージャー、キスして……」

優香 「ん……ちゅる………じゅる、好き………」

主人公が優香の胸を揉む

優香 「マネージャー……私のおっぱい、好きなの……？  
じゃあ、おっぱいでシてあげる……おっぱいでシコシコして……」

優香 「や、先っぽが口に当たるの……。ちゅうう……」

優香 「きゃっ、出ちゃったね……。

おっぱいがマネージャーの精液で濡れちゃった……。  
なんだかすごくいやらしいね……」

優香 「あ、まだ撮ってるの……？」

優香 「ん、何か来ちゃう……身体が熱いの……。変な感じ……」

主 「このまましようか」

優香 「え、撮りながらするの……やんっ、あ、おまんこ舐めないで、  
何も考えられなくなっちゃう……」

主 「優香のおまんこ、美味しいよ」

優香 「やだあ。マネージャーの舌が入って来て、れろれろしてりゅう……。  
私のおまんこ美味しい？」

主 「ああ。もっと舐めようか」

優香 「やだやだ、それよりおちんちん……！ 中も気持ちよくして！」

主 「優香はすぐにおちんちん欲しがるな」

優香 「だって、マネージャーのおちんちん、  
すぐに欲しくなっちゃうんだもん。中がうずうずするの」

主 「じゃあ、指を入れてみようか」

優香 「指？ 指じゃ物足りない……。ねえ、おちんちんがいいよお」

優香 「指だけ？」

主 「3本簡単に入ったな。ゆるゆるだ」

優香 「だってえ、マネージャーの欲しいから、蕩けてきちゃうんだもん。

マネージャーが好きすぎて溶けちゃう」

優香 「指だけじゃ足りないよお、早く、早く」

主 「じゃあ、おねだりしてごらん？」

優香 「カメラの前でおねだりしたら、入れてくれる……？」

主 「ああ」

優香 「あ、あの、こんな恥ずかしいエロまんこですが、

マネージャーのおっきいおちんちん入れてください。

中にいっぱい精子出して、優香の子宮をイかせてください♡」

主 「よく出来たな」

優香 「ね、ちゃんと出来たでしょ。早く、早く」

優香 「はぁんっ！ 気持ちいいよ、撮られてるの、気持ちいいよお」

優香 「あ、あ、なんか漏れちゃうの、だめ、見ないでえ」

主 「漏れる？」

優香 「うん。なんか変なの。やだ、やだやだ、も、もうだめえ……！」



優香 「やあ、何これえ。おしっこ出ちゃったの？」

主 「優香が淫乱だから、潮を吹いたんだよ」

優香 「しお……？ おしっこじゃないの？ 私、そんなに淫乱なの……？」

主 「そんなところ可愛いけどね」

優香 「やだ、こんなの、可愛くなんかないよ。

……私の知らないこと、まだまだいっぱいあるんだね……。

ねえ、マネージャーなら教えてくれるよね……？

私、もっとエッチな事知りたいの。エッチになりたいの……」

主 「ああ」

優香 「マネージャーのおちんちん、まだ中で大きいままだよ……。

また出して、私をおかしくしてえ……」

主 「ああ」

優香 「はっ、はっ、マネージャー、チューして……」

優香 「ん、ん、じゅるる……ちゅ……ちゅるるる……、

おまんこ壊れちゃう……、壊れて、マネージャーの形になっちゃうの。

マネージャーのおちんちんしか入らないの……っ」

主 「俺だけのまんこか」

優香 「そうだよ……っ、マネージャーの形のおまんこが、

マネージャーのおちんちんちゅっちゅするの……」

主 「そうか。じゃあ、期待に応えないとな」

優香 「あ、あ、ああああ!!」

繋がったままベッドに横になっているふたり

優香 「マネージャーのエッチ……私の中でまた大きくしてる……

にゆるにゆるして気持ちいい……」

主 「優香がエッチだからだよ」

優香 「私がエッチなのは、マネージャーの前でただだよ」

主 「さっきの動画見てみようか」

優香 「え、さっきの全部撮ってたの？ 最後の方とか覚えてないよ……  
もう……」

主 「いいだろ？」

優香 「だ、ダメ！ 恥ずかしいから見ないよ！」

主 「うん、優香が潮を吹くところも、いくところも全部だよ」

優香 「な、なんだかアダルトビデオみたい……。  
マネージャーしか、見ちゃダメだよ……。?  
マネージャーのためだけの優香なんだから……」

主 「再生してみようか」

優香 「やだやだ、恥ずかしいよ……ここで見ないで……」

主 「見ながらしたら、きっと興奮するよ」

優香 「見ながらするなんて……マネージャー、意地悪しないで……」

優香 「あ、や、見ないで、こんなの見られないよ……!」

主 「興奮するだろ？」

優香 「やだ、私、すごいエッチなこと言ってる。こんなエッチな格好して、恥ずかしいよお。見ないで、マネージャー、見ないでってば……」

優香 「あ、あ、マネージャー、大きくしないで、締め付けちゃうのお……もう、私だって、やられてばかりじゃないんだよ……耳、敏感だよね……？」

優香 「ちゅ……ちゅるる……じゅ……、気持ちいい……？  
私のおまんこの中と、耳の中、どっちが気持ちいい……？」

優香 「きゃんっ!!」

優香 「奥、奥気持ちいいの……!  
マネージャーのおちんちん、奥に当たって気持ちいいよお」

優香 「ちゅーして、もっとちゅーして、おちんちんおっきくして……!」

優香 「じゅる……ちゅるる……、はぁ……、マネージャー、  
マネージャー、好きい! もっと、もっとおちんちんちようだい!  
おまんこ壊れちゃうぐらいしてえ!」

主 「優香、最高だぞ……」

優香 「ひぐう、あんっ、あんっ、おちんちんのおっきいところで、  
ごりごりしりゅるのお、すごい、すごいよお……!」

主「自分でおっぱいいじるのか？」

優香「うんっ、自分でおっぱい揉んじやうの、乳首をクニクニすると、おまんこがきゅっっておちんちん締め付けるのお」

主「何回いった？」

優香「わかんない！ 何回いったかわかんないよお！」

優香「だって、だって私エッチではしたない子だもんっ。  
ひやうっ、しゅごい、しゅごいのお」

優香「アイドルなのにはしたない子でごめんなさいいい」

優香「アイドルおまんこ、気持ちいい？  
アイドルなのに、マネージャーだけのおまんこなのお」

主「くっ、いくぞ！」

優香「あぁっ、マネージャーの精液出てる、出てるよお！、  
びゅーっていっぱい出てるのお、中だしして、優香妊娠しちゃうう  
全部ちようだい、私の子宮をイかせてえ……！！！！」

優香「はぁ……っ、はぁ……っ、マネージャー、好きい、  
私、マネージャーのためだけのアイドルだからねえ、大好き……」

優香「中出し嬉しい。ねえ、ピル飲んでないって言ったら、怒る……？」

トラック6 「あなたに変えられたい」

■芸能事務所

ファンレターが入った箱を置く

優香 「マネージャー、これ、ファンレター？」

主 「ああ」

優香 「ここで読んでもいい？」

主 「いいよ」

優香 「どれどれ……」

優香 「僕は清楚な優香ちゃんが大好きでしたが、最近のちよっぴり色っぽい優香ちゃんもすごく好きです、だって」

優香 「えっと、こっちは……優香ちゃん、最近可愛いっていうより、美人になった気がします。でも、どっちの優香ちゃんも大好きです、って、へえ……」

主 「へえ、色っぽい、か……」

優香 「最近こういうファンレター多いね。私も大人っぽくなったってことかな？」

主 「恋人が出来たせいだろ」

優香 「それって……、マネージャーっていう恋人が出来て、女らしくなったってこと？」

主「そう、ベッドの中の優香はすごいからな」

優香

「もう、そういうこと言わないで、マネージャー。その、ベッドの中でのことは……マネージャーのせいなんだからねっ」

主「でも、確かにグラビア系アイドルのファンも多くなったな」

優香

「今まで清楚系アイドルって言われてたけど……、グラビア系のファンの人も多くなったよね。ちよ、ちよっと恥ずかしいな……」

優香

「グラビア撮影の機会も増えたし……ヌードじゃない写真集も出たし……」

優香

「今のままなら、もう『営業』なんてしなくてもいいかも」

主「そうだな。俺も嫌だ」

優香

「マネージャー、嫉妬してくれるんだ。ふふっ、嬉しい」

主「そりゃ優香は俺の恋人だからな」

優香

「うん、私はマネージャーの恋人……。でも……いつかは私をちゃんとお嫁さんにしてね？ マネージャー」

END